

出川 English の可能性

三 木 翔 太

第一章 はじめに

私の研究テーマは「出川 English の可能性」である。このテーマで研究することにした理由は、お笑い芸人の出川哲郎は、英語の語学力が低いにもかかわらず、海外で英語を使ってコミュニケーションをとり、事前に決められたミッションを達成していたことに、興味・関心を持ったからである。事前に決められたミッションとは、国際連合本部にて限定お土産を買ってくることや、地下鉄、フェリーを利用して自由の女神まで行き、レポートするなどである。出川哲郎は文法や単語などの英語のルールや知識がほとんどない。しかしTV番組にてニューヨーク・ロンドン・サンフランシスコ・ワシントンD.C.・バンクーバーの5都市で英語を用いてコミュニケーションを図り、事前に与えられたミッションを果たすことに成功している。私は大学で英語を勉強しているが、英語でのコミュニケーションだけではなく、文法の授業も受けてきた。英語の文法、単語の知識は、出川哲郎よりも私のほうが上だろう。しかし私は海外に行って彼のように英語を用いてコミュニケーションを図れる気がしない。どうして出川哲郎は英語を使ってコミュニケーションを図ることが出来たのだろうか、これが研究テーマを「出川 English の可能性」とした一番の理由である。

私が本研究テーマを選んだのには私のある経験に起因している。大学3年の6月当時、私は、新宿の飲み屋にて席が隣になったトルコ人と会話をする機会があった。最初は、“Where are you from?”と上手く英語での会話にもっていくことに成功したが、その後、英語で話すときに、会話の中で変な間がたくさん発生してしまった。話も進まず、相手の言うことを上手く聞き取り、正しい英文法で会話をしようと深く考えすぎてしまい、会話が弾まなかった。しかし、大学3年の4月に、多摩センターの居酒屋にいるときは、お酒が入って酔っていたため、外国人との会話でも文法に気にしすぎず、思ったことを

どんどん言った。相手の言ったことが聞き取れなくてもその場のノリでなんとなく適当にすごしていると、会話が進んでいき、円滑とまではいかないが、英語でコミュニケーションをとることが出来た。ここに「出川 English」と共通の何かを感じたのだ。

この「出川 English」を研究するにあたって RQ（リサーチクエスション）を「なぜ出川哲郎は語学力が高くないにもかかわらず、英語を使いコミュニケーションを図ることが出来たのか」と設定した。

この研究で得た英語でのコミュニケーション方法などの情報を基に、将来、教育の場で活かしたいと考えている。私は高校の英語教師を目指しており、未だに中学・高校英語は文法を重要視している点があると感じている。文法も大切だが、やはり英語とは言語であるため、コミュニケーションをどんどん行い、喋って身に着けるものだと考えている。日本の英語教育も受け身の授業から、生徒主体で、英語を言葉として実際に使ってみる教育へと変化してきている。私は、この「出川 English の可能性」という研究の結果を、中学・高校における、そうした生徒主体の英語教育に役立てていきたいと考えている。

第二章 概念的枠組み

本研究では、リサーチクエスションである「なぜ出川哲郎は語学力が高くないにもかかわらず、英語を使いコミュニケーションを図ることが出来たのか」について研究しており、このリサーチクエスションを研究した上で、出川哲郎の英語コミュニケーションと明星大学国際コミュニケーション学科の留学経験のある学生、留学経験の無い学生の英語のコミュニケーションの方法についての比較も行う。私は都立高校の英語教師を志しており、この研究を将来、教育の場にもつなげていきたいと考えている。

この研究を行う上で参考にした文献は『Globish The World Over（世界のグロービッシュ）』（著：ジャン＝ポール・ネリエール、デイビッド・ホン 訳：一般財団法人グローバル人材開発、2011）という書籍である。この本では、非ネイティブ同士、非ネイティブとネイティブの英語コミュニケーションにおいて完璧な英語は必要とされおらず、簡単な英語だけでコミュニケーション

ンをとることができ、その方が良いということを示している。その簡単な英語をグローバル・イングリッシュ、略してグロービッシュという。簡単な英語であるグロービッシュは出川哲郎の用いる英語コミュニケーション方法と類似していると考え、この書籍を参考文献として用いた。

この書籍で示されている、グロービッシュの4つの特徴を紹介する。この4つの特徴の前提には、「クローズド・システム」がある。「クローズド・システム」とは覚えることが少なく、合意すべきことが多い。つまり何かするときに所定の制約があり、それを受け入れるということだ。

その制約の一つ目は「グロービッシュには1500単語の制約がある」というものだ。教養のあるネイティブの語彙数は約7500語といわれているが、グロービッシュでは1500語のみを必要としている。1500語が理想という根拠は示されていないが、1800語や2000語よりも簡単に覚えられるが1000語では一般的な単語が不足している。そこから1500語と制約が設けられている。

二つ目は1つ目の1500語の単語の組み合わせ、変化により5000語にするということだ。この1500語を5000語にするのには4つの方法がある。

i) 単語同士をつなげる

- ・ 労働 (work) + 人 (man) = 労働者 (workman)
- ・ 日 (day) + 時間 (time) = 昼間 (daytime)
- ・ 人 (man) + 種類 (kind) = 人類 (mankind)

ii) 単語の前や後に何文字かを加える

- ・ im (否定の接頭語) + possible (可能な) = impossible (不可能な)
【形容詞】
- ・ possible (可能な) + -ity=possibility (可能性)
【形容詞】から【名詞】へ

iii) 1つの単語が名詞にも形容詞にもなる。

- ・ A truck is a way that farmers truck their corn to market.
一つ目の A truck は名詞のトラック、二つ目の truck は運ぶという

意味の動詞

iv) 簡単な動詞と前置詞で句動詞ができる

- ・ take out (持ち出す)
- ・ put on (着る、置く) (ネリエール & ホン、2011年、pp.123-129)

三つ目はシンプル文(文法)を用いるということだ。グロービッシュでは、受動態、仮定法を理解する必要はあるが、なるべく能動態の文を用いる。誰が何をしているのかを明瞭にすることが重要視されている。

- ・ The streets were cleaned in the morning. (英語：受動態)
The workmen cleaned the streets in the morning (グロービッシュ：能動態)
(ネリエール & ホン、2011年、p.109)

このように受動態は避けて能動態で表すことでシンプルでわかりやすい文章を作ることができる。

さらに慣用句や節の使用は15語以下に制限される。

- ・ (英語では) パリに行ったとき、買ったものを遠くまで運ばなくて済むように、大きなショッピング・エリアから離れていない、小さくて素敵なホテルをとった。

When we went to Paris we took a nice little hotel not far from the main shopping area so that we would not have too far to carry our purchases.

- ・ (グロービッシュでは) 私たちパリへ行行って、小さくて素敵なホテルを見つけた。そのホテルは大きなショッピング・エリアの近くだった。だから、買ったものをそれほど遠くへ運ばずに済んだ。

We went to Paris, and we found a nice little hotel. It was near the main shopping area. That way, we would not have too far to carry our purchases.
(ネリエール & ホン、2011年、p.109)

このように、長い分は作らずシンプル分をいくつか作ることによって理解しやすく

することができる。

四つ目の特徴はグロービッシュ・スピーカーは体や手や顔を使って伝える、というものである。例えば、会議の場などでは、グロービッシュで話すだけでなく絵や写真を用いたり、聞き手の理解を助ける働きを積極的に行う。話すことだけではなく書くときには見出しや太字、下線、絵を用いる。

これらのように、グロービッシュでは制約を設けることによって、より理解しやすくなる。本研究ではこのグロービッシュを分析の枠組みとし、研究対象者の出川哲郎がどのような方法で意思疎通を図り、番組内のミッションをクリアしていくのかについて深く研究を進めていくことにした。

第三章 メソトロジー

3.1 研究対象

研究テーマにもある通り、私は出川哲郎の英語でのコミュニケーションについて研究した。そのため出川哲郎が英語でコミュニケーションを行っている日本テレビの番組、「世界の果てまでイッテQ！」の「出川哲郎はじめてのおつかい」というコーナーを研究対象とした。このコーナーは2017年8月6日までで6回放送されており、出川哲郎がニューヨーク(2回)、ロンドン、サンフランシスコ、ワシントンD.C.、バンクーバーにて出されたミッションを現地のアメリカ人、イギリス人、カナダ人と英語でコミュニケーションをとってクリアしていくという企画である。ミッションには「タイムズスクエアでI♡NYと書かれたTシャツを買え」などが出される。ミッションの詳細は3.3にて紹介する。この企画では日本人の手助けと目的地の名称のみでミッションをクリア出来てしまう可能性からタクシーの使用が禁じられているが出川哲郎の場合は、どうしてもミッションをクリア出来ない時にのみ1つのミッションにつき1回ヒントをもらうことが出来るテレフォンが用意されている。

3.2 研究対象者

研究対象者はマセキ芸能社所属のお笑い芸人である出川哲郎で、1964

年2月13日生まれ、神奈川県横浜市出身である。160cm74kgと小さいがぽっちゃりしていて少し可愛いおじちゃんキャラで、芸風はリアクション芸人である。高校卒業後京都の月心寺にて調理実習をした後に、横浜放送映画専門学院（現：日本映画学校）の演劇科へ通い卒業した。出川は、この学校を卒業した1985年に芸能界デビューした（HP「マセキ芸能者オフィシャルサイト」）。専門学校時代のウッチャンナンチャンなどの同期と劇団SHA・LA・LAを結成しており座長を務める。俳優を目指していたがビートたけしの番組でドッキリにかけられ、後にリアクション芸人として大成した。過去には雑誌「an・an」の嫌いな男ランキング1位を5年連続でとり、殿堂入りしているが、今では通信教育の「進研ゼミ」が行った友達になりたい芸能人で1位を獲得しており人気、好感度共に非常に高い。高校時代は自称誰もが恐れるヤンキーで「キレたナイフ」と呼ばれていたが元ヤンキャラはTVでの演出だとされている。また、リアクションだけではなくポンコツ芸人としてのキャラもある。このキャラが定着したのには、掛け算ができなかったり日本語が下手といった点にも起因している。

ここまで、彼の経歴を見ると出川哲郎は、英語に触れることはほとんどなく生きてきたことがわかる。こんな出川哲郎がTV番組で英語を使いコミュニケーションをとれていることが不思議である。

出川哲郎がミッションをクリア出来そうにない時に使用するテレフォンでアドバイスをするのは出川哲郎と共にロケを行っている出川ガールである。この出川ガールは日本人であり、英語を得意としている。最新の放送である2016年8月7日の第4回目の放送までで2人の出川ガールが番組出演をしている。

一人目は河北麻友子。ニューヨーク育ちであり、公式プロフィールでも特技の欄に英語と書かれている（HP「河北麻友子オフィシャルサイト」）。

二人目は谷まりあ。パキスタン人と日本人のハーフであり早稲田大学に通っている現役女子大生モデルである（番組内紹介）。

3.3 研究方法

データ収集期間は放送日の映像を見ることであるため期間などは定めない。放送日の日付と出川哲郎のはじめてのおつかいが行われた場所、ミッショ

ン内容は以下の通りである。毎回英語が話せる出川ガールと一緒に現地につれていき、ホテルのランクを決めるミッションには出川ガールも参加している。さらに出川哲郎と、英語を流暢に話せる出川ガールとのコミュニケーションの取り方の違いなども観察した。また出川ガールの詳細は3.2の研究対象に記した通りである。

使用した研究手法は観察で、3.1で述べた「世界の果てまでイッテQ！」の「出川哲郎はじめてのおつかい」のコーナーを観察により分析した。この観察対象となる本番組のコーナーを、より深く研究するために会話の書き起こしを行った。1つの放送はそれぞれ約30分ほどだが、巻き戻しを繰り返し、何度も見て書き起こしをしたため放送1回につき2時間ほどの時間を要した。書き起こしをして研究の対象としたのは第一回放送の2015年2月22日放送ニューヨーク編、第三回放送の2016年5月8日放送サンフランシスコ編である。これら2放送分を観察、分析することにした。この2放送で明らかになったことを第4章でデータとともに分析を行う。観察する際に注目した点は、①一回の番組放送で、出川哲郎本人が使った単語数、②ジェスチャーなど喋る以外にはどのようなコミュニケーション方法を使っていたか、③外国人に話しかけるときの、何と言って会話を始めたのか(Excuse me から入るのか、いきなり本題であるミッションのことを聞くのかなど)、④英語での会話が上手くいかないときにどのような対処をとっているかについてである。

また、現在日本テレビ「世界の果てまでイッテQ！」の番組に出川哲郎へのインタビュー交渉を行っている最中ではあるが、未だ返事はない。

分析対象

第一回放送 2015年2月22日 ニューヨーク (研究対象放送回)

ミッション1: タイムズスクエアで「I ♥ NY」Tシャツを買え!

 テレフォン未使用 ミッションクリア

ミッション2: 国際連合本部で限定お土産を買って来い!

 テレフォン使用 ミッションクリア

 ・一人でタイムズスクエアにてホテルを探し宿泊に成功

ミッション3: 自由の女神をレポート!

 テレフォン未使用 ミッションクリア

第三回放送 2016年5月8日 サンフランシスコ(研究対象放送回)

ミッション1: サンフランシスコの名所である刑務所をレポート!

テレフォン未使用 ミッションクリア

・ホテルグレードアップチャレンジ

① 1ドル札に描かれている人物は?

ミッションクリア (出川哲郎)

② サンフランシスコ生まれの世界の人が来ているブランドを3つ答えよ

ミッション失敗 (出川ガール: 谷まりあ)

③ ここは何州?

ミッション失敗 (出川哲郎)

ミッション2: 超人気のお店で買い物!

お店の名前を日本語に訳すと「たんぼぼ」

テレフォン使用 ミッションクリア

ミッション3: 夜景の名所をレポート!

その場所を日本語に訳すと「宝島」

テレフォン未使用 ミッションクリア

2017年8月6日現在までの全六回放送にて総ミッション数が16、内、テレフォン使用は6回で全てのミッションをクリアしている。

さらに本研究では出川 ENGLISH を研究した上で、2017年2月26日から3月26日まで一ヶ月間オーストラリアのシドニーに短期留学したため、実際に出川 ENGLISH を実践してきた。この詳細は、四章にて、研究結果と共に示す。

第四章 データ分析結果

本章では、研究のリサーチクエスションである「なぜ出川哲郎は語学力が高くないにもかかわらず、英語を使いコミュニケーションを図ることが出来たのか」について観察を行い、明らかになったことを示していく。出川の話し相手の外国人の英語が音量的に聞き取ることが出来ない箇所は、番組内

での日本語訳を使った。太文字の部分が実際に喋っている言葉である。録画されたやり取りを分析してみると、出川哲郎は英語コミュニケーションにおいて、相手にうまく自身のメッセージを伝えるために5つの方法を用いていることが明らかとなった。

4.1 方法1：シンプルに使える

一つ目の方法は単語だけで会話したり、単語の語尾をあげて疑問の表現をするという方法である。以下はその方法が使われている会話場面である。

データ1 NY タイムズスクエアに向かうバスに乗る場面にて

出川 : (バスを見つけて) Sorry? Times square?

バスの運転手: 違うけど地下鉄乗り場まではいけるから早くのれ!

出川 : Times square OK?

バスの運転手: (乗れというジェスチャーをしながら) 出発するぞ

出川 : Sorry Sorry? (後ろのアメリカ人女性に向かって)
Times Square?

米A : No, you go on train.

出川 : train?

米B : Yeah, train. Down town Train.

出川 : my my down. Down down (出川が降りる駅に着いて
アメリカ人女性がそれを教えてくれたのか、降りる
ことの確認をしたときに出川が発した英語)

この場面で出川は、バスの運転手に sorry, Times square? と目的地の単語だけで質問をしている。このとき square? のところは語尾を上げていて、質問している状況を演出していた。その後も times square と train という単語のみで会話していた。

この出川の単語だけで会話したり、Do you know ~? と簡単な文を使うのは、グロービッシュの1つの特徴である、主に能動態を使い、文章も短くシンプルにする(ネリエール & ホン、2011年、p.109)と類似していると言える。

4.2 方法2：様々なものの活用

二つ目の方法はジェスチャーを使ったり、身の回りにあるものをフルに活用していたという方法である。以下はその方法が確認できる会話場面である。

データ2 NYタイムズスクエアに向かう道中

出川 : Japanese? (女性に日本人かと思って声をかける)

米B : No No No

米Bの犬: (出川に近づき出川の匂いを嗅ぐ)

出川 : (犬に気づいて)Oh! 焦った! Oh sorry ね、sorry sorry
(最初の sorry は犬に謝って後の2回の sorry は飼い主に excuse me の感覚で聞いている)Do you know Times Square?

米B : h yeah yeah

出川 : 指をさしながら)left? Right? Center? Back? (女性の喋っていることは理解していないが、とりあえずジェスチャーで分かった方角に向かって歩き出す)

ここで出川はミッションクリアのための第一歩として方角を聞くのに指差しジェスチャーを使っていた。Left,Right,Center,Back でそれぞれの方角を指差していた。

また、次に示す会話場面では、身体全体を使ったジェスチャーを活用している。

データ3 アメリカにて国際連合本部で限定お土産を買って来い! というミッションで国際連合本部という単語がわからず一時間聞き込みをしても伝わらなかったことから出川ガールに電話して国際連合本部は'United Nations Headquarters'だと知った後の場面である。

出川 : Sorry United テイステイション?

米人グループD: United Nations is the east side (東を指さしながら)

出川 : Bus or train or walking? (walking のところだけ歩くジェスチャーをしていた)

この様に出川は歩くジェスチャーを用いて、身体全体を使ったジェスチャーを活用している。さらに、以下の続きのデータはどの電車に乗るのか、どの駅で降りるかを尋ねる場面でも、出川は身体全体を使ったジェスチャーを活用していた。

米 D : Or taxi?

出川 : No taxi Sorry ね sorry sorry no taxi (アメリカ人2人が大爆笑。タクシーはだめなのかよというニュアンスの爆笑だった)

米 E : あそこから電車に乗りな (英語は音量的に聞き取れず日本語字幕にて) D train (乗る電車の説明)

米 D : DDD (D train に乗れとわかりやすく説明するために DDD と繰り返し言う、また D トレインの方角を指さしている)

出川 : D D train (D はアルファベットの D であるか確認するために指で D を描いていたが、出川から見たら D と描いてあるが対面しているアメリカ人2人からは D が反転しているというおちゃめな出川。しかし伝わる) で down する station (この出川 English が伝わらなかったため次のように確認作業に入る) D train (電車に飛び乗るジェスチャーをする) で down の station name (結局直前とっていることは同じである。これを見てアメリカ人2人は再び大爆笑。こいつ何やってるんだという感じ。) United Nation station. Near station の name name . say say say (無茶苦茶な英語で say say say は失礼のようにもうかがえるが通じる。なぜか name name . saysay say のときに自分を指さすジェスチャーをしていた)

米 D : 47street

出川 : 47street で down D station で あ in

出川 : Thank you (親指をたててグッドをしながら)

この会話の場面では、電車に乗る駅と降りる駅の確認のため、手でDという文字を作ったり、電車に乗るジェスチャーを行っていた。相手にもしっかり伝わり意思疎通ができ、英語を使つてのコミュニケーションに成功していることがわかった。

分析した会話データの中には、身の回りにあるものを活用して、ジェスチャーをしていたものも確認された。そのデータが以下の通りである。

データ4 自由の女神をリポート！というミッションでどこにあるのかの聞き込みをしている最中。

出川：sorry sorry (マネキンを指さしながら)NY ,NY doll,big doll big doll (両手を上にあげて大きいというジェスチャーをしながら)
Do you know? free woman big doll, (男性が黙って困っているのでどんどん話しかける)free white doll, white doll white doll
王冠 王冠 キングハットをかぶった、ドールが分からないのかな do you know doll?

米 F：year, Door, door, right? (マネキンの横のドアを指さして)

出川：door NO NO NO doll doll (マネキンを指さして)

米 F：door...

出川：マネキン、do you know?

米 F：mannequin yes

出川：mannequin = doll

米 F：Oh doll (doorではなく dollだと気づく)

出川：big doll big doll NO.1 spot white big doll

米 F：White big doll in New York... (見当もつかない感じ)King Kong?

出川：oh near near near near (出川にとっての near は近い, おいしいという意味が含まれている。キングコングは大きいことから惜しいといっている) 近い、もうひとこえ、キングコングともう何キングコングといえば? (完全に日本語になる)

米 F：Snoopy

まず、出川は自由の女神を英訳できなかつたため、彼なりに「大きな人形」と表現したため、big doll と言う。しかし発音がしっかりできていなかったため doll が人形だと伝わらなかった。そのため出川はすぐそばにあった店のマネキンを活用する。そこでまず、伝わらなかった doll というのは人形のことであることを説明するために mannequin=doll と言うと、doll は人形のことを言っていると米 F は気づいた。出川はマネキンを利用して、ジェスチャーだけではなく身の周りにも活用していた。

これらのデータで示したとおり、ジェスチャーであったり身の周りのものを活用して出川は自身のメッセージを相手にうまく伝え、意思疎通をはかっていることがわかった。出川のこれらの行動は「見出しを太字にしたり、絵や写真を活用することで明瞭に話したりあらわすことができる。」（ネリエール & ホン、2011年、p.109）というグローバルイングリッシュと共通する部分があるといえるだろう。

4.3 方法3：確認作業

三つ目の方法は、何度も確認作業をする方法である。以下は、その方法が用いられている会話場面である。

データ 5 出川は最初自由の女神は白だと思っていたが、道中のお土産屋さんで自由の女神が白ではなくグリーンだと気づき、今度はグリーンで聞き込みを行う。

出川：Green big doll , New York NO.1 spot

米 F：Statue of Liberty

出川：one more

米 F：Statue Of Liberty

出川：スタジオエブリって何？ What's?

米 F：Ok,sorry

正解の Statue of Liberty が出たが、出川は理解できず聞き返したところで米

Fは去ってしまう。以下は、他の人で確認をするために、すぐそばにいた警備員のおじさんに話しかける場面である。

出川：Green big doll NY No.1 spot

警備：Statue of Liberty

出川：スタジオリブティ？スタジオリブティ = green big doll?

警備：Green doll ,yep

ここで出川はスタジオリブティが自由の女神と関連があると気づいて、スタジオリブティ = green big doll? と確認作業を行っていることがわかる。さらに、街にいる女性に確認作業を行う場面が以下のデータである。

出川：sorry Do you know スタジオリブティ? Very very big green doll.

女性：ah Statue Of Liberty

米F、警備員そして女性の三人に聞き込みをすることで自由の女神が statue of liberty だと気づくことに成功していた。さらに statue of liberty が自由の女神だと警備員と話をした時点で気づいていたが、その後その情報が正しいと確信を得るために他の女性に確認をしていることがわかる。以下のデータは自由の女神までの行き方を確認している会話場面である。

出川：SorryDo you know スタジオリバティ？スタジオリバティ near
near train station

米H：1train

出川：oh sorry sorry ,slowly slowly 英語 one more come on

米H：(ゆっくり)Staten Island Ferry

出川：スターリンアイランドフェリー

米H：yes

出川：ダウンタウンスターアラインアイランドフェリー ダウンタウン
スターアラインアイランドフェリー (忘れないように何回も
繰り返してアメリカ人女性Hにありがとうと手を挙げて合図

してその場を離れる)

自由の女神までの行き方をたずねるのに oh sorry sorry ,slowly slowly 英語 one more come on と降りる駅名をしっかりと理解するためにゆっくり喋ってもらい、確認をしていた。

さらに、サンフランシスコにある観光地の Alcatraz という刑務所までの道中でも確認作業を何度も行っていた。以下のデータ 6 がその会話場面である。

データ 6 サンフランシスコの名所である刑務所をレポート！ミッション中

出川：sorry Do you know wanted house?

米 I：No

出川：many many wanted man house

米 I：I don't know

出川は刑務所という英単語がわからなかったため、wanted house と出川流の英語で話しかけるが通じなかった。以下の会話は、近くにいた米 I と K に話しかける場面である。

出川：Do you know wanted?

米 I：Haunted house?

出川：come on one more

米 K：Haunted house?

出川：ホンデドハウス？囚人って何て言うんだ very bad man, many many people , many many bad man sleeping house 悪い奴、悪い男がみんな寝る（日本語で話しはじめる）Bad man は people 刺す刺す（包丁で刺すような動作をしながら）Oh my god（刺された人のジェスチャーで少し大きな声で）Very very bad man sleeping house（眠るジェスチャーをしながら）Bad man

は no good man

米 I : Alcatraz? (刑務所の名前)

出川 : sorry ok one more

米 I : Alcatraz

出川 : アウトチャイルズ? (Alcatraz のこと)

米 I : yeah, The prison, right?

出川 : oh sorry sorry one more アウトプレゼント?

米 I : Alcatraz present? (出川のアウトプレゼントのプレゼントに何それというニュアンスで聞いている)

出川 : oh come on come on slowly slowly (手を上下にするジェスチャーをしながら)

米 I : Alcatraz (ゆっくり)

出川 : アウトトレイス? アウトトランス?

米 I : yes

出川 : アウトトランス many many bad people sleeping house? (眠るジェスチャーをしながら)

米 I : Yes, but not anymore

出川 : アウトトランス? good good good OK thank you

上記の会話場面で出川は Slowly slowly と言うことで、ゆっくり話してもらい、alcatraz をしっかりヒアリングしようとしていることがわかる。そして alcatraz が、ミッションの目的地と関係があるのか確認作業をする。以下の会話場面では、その確認作業が行われている場面であり、すぐ近くにいたアメリカ人グループとの会話場面である。

出川 : sorry, bad people= . . . トランス? (アウトトランスがでてこない)

米 J : . . .

出川は米 I に教えてもらった alcatraz を忘れてしまったため、さきほどの米 I がすぐそばにいたので、sorry one more ともう一度聞きに行った。下の会

話はもう一度米 J のところへ戻り、質問を始める場面である。

出川：アウトトランス home name come on

米 J：The rock. Alcatraz prozn.

出川：ロック？ああ！！監獄ロックのロックだ。Elvis Presley ロック

米 J：Oh no, not Elvis Presley as in the Rock 'n Roll NO, It's called the rock.

出川：アウトトランス = ロック？

この会話ではロックという単語を聞いて監獄ロックとつながり、刑務所と関係があると出川は気づくが、それは無関係であり、出川の誤解であった。新しく出てきたロックという単語を使い、もう一度アメリカ人グループの米 I と米 K に確認をしに行くのが下記の会話場面である。

出川：アウトトランス = デイ rock? デロック? デロック? ザロック?
デロック?

米 I：Yes, the rock

出川：デイ ロックって what's?

米 K：Alcatraz is on a rock. The house name is Alcatraz.

出川：アウトトラックが name!?(アウトトラックがキーセンテンス
だとは気づいていたが刑務所の名前とここで気づく)

米 K：It's the name of where all the bad people live.

出川：OKOK Thank you アウトドラッグ

Alcatraz が目的地の刑務所であると、確認作業を行うことで「アウトドラッグ」と少し間違っているが、Alcatraz に近づくことに成功している。

さらに下記のデータは出川がそこから離れてまたアメリカ人ペア E,F に確認を行う場面である。

出川：many many bad man and bad woman sleeping house

米 L：Jail (牢屋の柵につかまるジェスチャーをしながら)

出川：(ジェスチャーをみて)Yes! そうそうそうそうそう! San Francisco NO.1 ジェール (jail のこと) hotel.NO.1 ジェール

米M：Alcatraz.

米L：Island.

出川：アイカラズドテラス? (Alcatraz と Island が混ざる)

米L：Alcatraz. Write down? (書くジェスチャーをしながら)

出川：NO NO NO hearing OK. very nice hearing my (my の部分は自分を指さしながら)

米L：Alcatraz

出川：会うか? テラス

ここで出川は文字を書いてもらうことは出川のプライドに反するのか、言葉のコミュニケーションだけでミッションをクリアしようとしていることがわかった。何度も確認作業を行うことによって目指している刑務所が Alcatraz だと気づくことはできたが正しく発音を覚えることができず Alcatraz が「アウトドラッグ」になり「会うか? テラス」となってしまった。そして出川は以下のように忘れないために独り言を言いながら歩き出す

出川：会うか会わないか会うかテラス、会うかテラスハウスに会うか?

独り言を言ってキーセンテンスを忘れない様にしていた。次の会話場面はもう一人に Alcatraz で本当にあっているのか確認をすると Alcatraz までの行き方を説明してくれた場面である。

出川：Do you know 会うかテラス?

米O：Yes, you can take a tour of it if you would like? You take a boat from pier 39 down the bay and it will take you over to Alcatraz.

出川：質問はひとつだけ one question (米Oが言っていることが何かわからなかったため) 会うかテラス No.1 five star ジェール? (五つ星がつくほど最高のジェールか聞いている)

米 O : Yes. If you take the cable car right here (ケーブルカーのほうを指さしながら) The cablecar will take you all the way down to the wharf.

出川 : ケーブルカーに乗って (乗る動作をしながら) Hi come on アウカテラス .OK thank you (米 G の肩をトントンと叩きながら)

「会うかテラス」という発音でも Alcatraz だと米 O は気づき、Alcatraz への行き方を説明してくれた。出川は米 O の長い英文は理解できなかったが、ここで「会うかテラス」(Alcatraz のこと) が目的地であると確信を持った。アメリカ人がケーブルカーの方向を指さすことで、Alcatraz への行き方の情報も得ることができた。

出川が確認作業をするときに重要視していることは、同じキーワードが出てくるかである。さらに、確認がとれるまで、何度でもしつこく聞いている。これが複数の場面で確認された。

4.4 方法 4 : 言い換え

四つ目の方法は、言い換えを用いることである。以下はその方法の使用が確認できた会話場面である。

データ 4 自由の女神をレポート！というミッションでどこにあるのかの聞き込みをしている最中。doll が通じなかったため、代わりに mannequin と言い換えをしたのが以下の会話場面である。

出川 : sorry sorry (すぐそばにある店のマネキンを指さしながら) NY, NY doll, big doll big doll (両手を上にあげて大きいというジェスチャーをしながら) Do you know? free woman big doll, (男性が黙って困っているのでどンドン話しかける) free white doll, white doll white doll 王冠 王冠 キングハットをかぶった、ドールが分からないのかな do you know doll?

米 F : year, Door, door, right? (マネキンの横のドアを指さして)

出川：door NO NO NO doll doll (マネキンを指さして)

米 F：door...

出川：マネキン、do you know?

米 F：mannequin yes

出川：mannequin = doll

米 F：Oh doll (door ではなく doll だと気づく)

Doll が発音の問題で相手にうまく伝えることが出来なかった出川だったが、mannequin という言い換えをすることで、相手に door ではなく doll と言ったことを理解させることに成功している。

言い換えの活用は以下の場面でも確認できた。この場面で出川は、たんぼぼという英単語がわからなかったが、出川なりの言い換えでたんぼぼという英単語までたどり着こうとする。

データ7 超人気店で買い物！お店の名前を日本語に訳すと「たんぼぼ」というミッション中

まずは道を歩いている 50代男性に話しかける

出川：sorry, Do you know flower?

米 P：yes

出川：rose orangeflower

米 P：orenge Daliha?

出川：No ひまわりひまわり Tulip , rose もう一つ 世界三大フラワー Yellow yellow

米 H：sunflower? You' re talking about a sunflower.

出川：sunflower ok thank you

上記の会話場面で出川はひまわりが sunflower だという情報を手に入れた。出川はたんぼぼという英単語がわからなかったため、たんぼぼをひまわりの小さいやつと説明するためにひまわりという英単語を探っていた。「たんぼぼ」を「ひまわりの小さいやつ」と言い換えたのだ。出川は、目的の場所の英

単語などがわからなくても、出川なりに言い換えをしてあきらめずにミッションクリアのためにコミュニケーションを図っていた。

4.5 方法 5：コミュニケーション能力

最後に挙げる方法は、人見知りをしないでどんどん話しかけたりフランクに人と接するという、出川ならではとも言える方法である。以下はこの方法が使用されている会話場面である。

データ 1 NY タイムズスクエアに向かう途中のバスが正しいのかを後ろの座席の女性にいきなり話しかけている場面

出川：Sorry Sorry? (後ろのアメリカ人女性に向かって)
Times Square?

米 A：No, you go on train.

出川：train?

米 A：Yeah, train. Down town Train.

出川：my my down. Down down (出川が降りる駅に着いてアメリカ人女性がそれを教えてくれたのか、降りることの確認をしたときに出川が発した英語)

上記の会話場面ではバスに乗ると、何をしゃべるか考えたり、誰に話すかなども考えず、いきなり後ろの座席の人に話しかけていて、人見知りをせずにどんどん積極的にコミュニケーションを図ろうとしていることがわかる。

また、前にデータ 3 として示す会話場面では、出川が質問したアメリカ人 D と E は二人とも強面の外国人であり、一人はスキンヘッドでサングラスをしていて日本人なら避けがちになりそうなところでも、出川は近くにいた彼らに積極的に話しかけていた。

そして、次に示すデータ 8 は、出川のフランクな人柄が伝わってくる会話場面である。

データ 8 超人気店で買い物！お店の名前を日本語に訳すと「たんぼ

ぼ」というミッション中。以下の会話場面はミッション終盤で「たんぼぼ」を訳すと dandelion だと気づいた後に、もう一度確認のために犬の散歩をしているおばあちゃん R に質問をする

出川：Do you know ランデライオン？ Flower name
 米 R：Flower ... Dandelion? Did you want to go to the store?
 出川：おおきたあ！（テンションがあがりハグをする）ランデライオン store name Left?right?center?（指さししながら）
 米 R：I think center here straight.
 出川：ストリート？ Ok Thank you

「たんぼぼ」の英訳がわからず、苦勞していたがついに「たんぼぼ」が dandelion だとわかり、興奮し、そのまま会話相手の米 R とハグをするという出川のフランクな人柄が伝わってきた。

このように英語コミュニケーションにおいて相手にうまく自身のメッセージを伝えるための有効な 5 つの方法が明らかになった。

ここで概念的枠組みであるグローバルイングリッシュと照らし合わせていく。第二章で説明した、①グローバルイングリッシュは基本の単語だけでシンプルな文を用いること②手や体、フリップなどを用いて聞き手の理解を助ける働きを行うという二点が出川とグローバルイングリッシュの共通点である。これらは英語を用いてのコミュニケーションに欠かせないことだと考えるため、そこに注目する。

①についてだが、出川の場合、英語力が低いため自然とグローバルイングリッシュ通りになっている。難しい単語は使わず、Do you know~~? という簡単な文だけを用いたり単語だけで会話をしていた。出川には受動態を使う英語力がないので、全て能動でわかりやすい文であった。

②については、明らかになったことの 2 つ目で紹介した通り、出川はジェスチャーなどを積極的に使っていた。指差しを行ったり、歩く仕草をすることで聞き手の理解を促進していたことがわかった。

私自身がグローバルイングリッシュと出川イングリッシュを研究して分

かったこと、感じたことは、どちらも英語を言語としてとらえていることである。私たちは英語を学校で学ぶため、完璧な英語でなければいけないと思いがちである。そのため自分の英語が正しいのかを気にして外国人との英語でのコミュニケーションに自信をもつことができないのかもしれない。しかし、英語とは言語である。重要なことは正しい英語を使うことではなく、英語とは意思疎通を行ういわば1つのツールにすぎないという考え方をもつことではないだろうか。実際に出川の英語はめちゃくちゃだが、しっかり相手とコミュニケーションをとって意思疎通ができていた。英語とは学校で学んだことを正しく発揮するためにあるのではなく、言語が違うもの同士のコミュニケーションツールの1つなのではないだろうか。

4.6 三木 ENGLISH

出川 ENGLISH を研究して、ここまで示した分析結果を得て、私は、2017年2月26日から3月26日まで一ヶ月間オーストラリアのシドニーに短期留学したため、実際に出川 ENGLISH を実践してきた。録画をしながら実践をし、明らかになったことを本節に示していく。私は、分析で明らかになった5つのことに着目して、出川 ENGLISH を実践した。詳細は以下の通りである。

実施日：2017年2月26日

場所：オーストラリア シドニー

[出発点] オペラハウス前

[目的地] ピットストリートモール

徒歩：約20分 距離：約1.6km

実施者：明星大学国際コミュニケーション学科3年(当時)三木翔太
留学経験はなく、初めての海外2日目に実施した。

英語の先生になろうと高校3年の夏に決め、大学に入ってから英語を専門的に学び始めた。中学・高校での苦手科目は英語で、いくら勉強してもテストの点数が70点を超えたことがない。

実施結果：ミッションクリア

所要時間：約 1 時間

聞いた回数：2 回（一回目は 2 人組の親子、二回目は 3 人の老人グループ）

この出川 ENGLISH を実践する上で、意識したことは①人見知りをせずに
どンドン話しかけること、②単語だけでもいいから思いついたことをどん
ん発言すること、③行き先などを聞いたらもう一度確認作業を行うこと、④
会話の最後に握手をしたりハグをすること、という 4 点であった。そして、
実際に実践してみたことで、2 つのことが明らかになった。その明らかになっ
た 2 つのことを、データと共に解説していく。

明らかになったこと 1：出川の人間力を感じた

実際に出川 ENGLISH を実践した感想として、一番に感じたことは、出川
の人間力である。私自身も人見知りを基本的にしないため、すぐに話しかけ
て余裕でミッションをクリアできると思っていたが、全然勇気がでず、一人
目に話しかけるのに約 30 分かかった。録画していた動画を見ると、オペラ
ハウス前からスタートしたため、観光客ばかりで聞きづらいと言いついて
いた。その後、オペラハウス前から離れて、路地に入ったものの、何て質問
しようか考え、どの英文が正しいのかと考えたり、話しかける相手をなるべく
優しく教えてくれそうな人に聞こうと考えていた。一方出川は何を話すか
を決めずに近くにいる人にどンドン話しかけていた。人見知りをしない私
でもいろいろと考えてしまい、英語を使うことに抵抗があるのだと感じた。そ
の後、道を尋ねることができたが、会話が終わって握手をしたりハグをする
ことはできなかった。出川が多くの場面で行っていた「①人見知りをせずに
どンドン話しかけること」、「④会話の最後に握手をしたりハグをすること」
という方法は、実践することができなかった。

明らかになったこと 2：実際に今までに習った英語の会話表現が役に立った
ということ

私は、大学 1,2 年で外国語という授業で、英語・中国語の選択肢の中から
英語を選択していた。その授業はネイティブスピーカーが講師を勤め、英語
のみで授業が展開されていく。その授業で、道を尋ねるという内容の授業が

あった。その授業では、go along the street や turn right at the first corner などという表現を学んだ。下記の会話文の最後では、その授業で学んだ、go along the street again という表現が、事前に準備していたわけではないが、会話中に自然と出てきた。その会話文が以下のデータ 9 である。

データ 9 現地で、外国人グループに道を尋ねている最中の会話

三木：sorry do you know pitt street mall?

外 R：which one?

三木：pitt street mall?

外 S：oh pitt street

三木：Where is pitt street mall?

外 S：It's quite long way out ~~~~~~ (聞き取れない)

三木：a a a

このとき、外国人 S がしゃべっているが、聞き取れず、わからずにどっち方向かを知るために指で方角を指すジェスチャーをして確かめた。出川のようにジェスチャーを活用することはできたが、slowly please などと違って、会話の確認をすることはできなかった。以下は会話の続きの場面である。

外 R：~~~~ (聞き取れないが左に曲がるようなジェスチャーをしていた)

三木：left? (左に曲がる指のジェスチャーをしながら)

外 R：yes

三木：When I turn left?

外 R：so go left up here (そこと指差しながら)

三木：here? left?

外 S：pitt street is next one pitt P I T T

三木：ピッチ?

外国人 B が pitt (発音は「ピット」ではなく「ピッチ」という道があると教え

てくれたが、私の中では、「ピッチ」ではなく「ピットストリート」だったため、このおぼさんが何故「ピッチ」と言い出したのかわからなかった。後から録画した動画を見て、ピッチという道があると理解した。以下の会話場面で、go along the street と、学校で習ったことが自然と出てくる。

外 S : walking , maybe fifteen minutes

三木 : fifteen minutes. ok two ... ah next two street left turn left (指でジェスチャーをしながら)

外 S : yes

三木 : and go along the street again?

外 S : yes

三木 : ah ok thank you thank you

この会話場面では、なんとなくではあったが、どこで曲がるのかわかり、学校で学んだ go along street という表現が自然と出てきたため、円滑なコミュニケーションをとることができた。この後、無事に pitt street mall にたどり着くことができた。

さらに意識したこと「②単語だけでもいいから思いついたことをどんどん発言すること」においては、上記のデータ9で left? などと単語だけでもすぐに思いついたことを発言できている。相手の言っていることが理解できずに詰まって困ってしまうシーンもあったが、何か喋らないと話が進まないと感じたため、単語だけでもいいから思いついたことを発言した。

さらに、意識したこと「③の行き先などを聞いたら確認作業を行うこと」においても実践することができた。確認作業を行う際にジェスチャーを用いて確認し、and go along the street again と道を曲がったらまた真っ直ぐだね、と私は確認していた。確認をしてしっかり理解することができたが、このとき自分でも驚いたのが自然と go along the street again という文が無意識にできてきたことである。これは、前に記述した通り、私が大学1年のときに履修していた外国語というネイティブスピーカーの授業で学んだ内容である。実際にグループやペアで道を尋ねたり教えることで英語を使い、身についたと考えられる。そして気がついたことは、今まで六年間中学・高校で座学で

学んだことよりも、たった3時間の大学の2コマが役に立ったということだ。その要因は、大学でのこの3時間では実際に英語を喋って練習したということだろう。実際に自分で使ってみたという点が重要な部分だと考えられる。授業で道の尋ね方についてインプットして、実際にネイティブの先生とも道を尋ねるという英語でのコミュニケーションを行うアクティビティーを通してアウトプットを行った。この一連の流れがあったからこそ、今回シドニーでも役に立ったのだろう。以上の2つのことが明らかになった。

また、このシドニーでの一ヶ月間の留学では、実際に英語を使うことで英語を話すことの抵抗感が少しずつ薄れていくことがわかった。現地の語学学校で英語を使ったり、ショッピングの際に英語を使うことで、どんどん英語を使う抵抗感が薄れていった。さらに酔っ払うと私は記憶がないが、近くにいた外国人とたくさん英語で喋っていたと友人が言っていた。これは、酒が入って抵抗感がなくなり、自分のいたいことをどんどん喋ることで相手にも自分の考えが伝わりコミュニケーションが成立したのだろう。友人は文法が時々意味不明だったが相手に伝わっていたといていた。これは出川イングリッシュと共通する部分があるだろう。

実際に私が出川イングリッシュを行い、私たち一般人でも真似をできることが4つ明らかになった。

真似できること1：単語だけでもどんどん自分の思っていることを伝えようとすること

外国人と英語で話す状況になれば、英語を使わざるをえない。特に一对一での会話ともなると必ず発言をしなくてはならない。その時に伝わるか伝わらないかは別として、単語だけでもどんどん自分の意見を伝えようと意識することで、英語を用いたコミュニケーションは成立するだろう。

真似できること2：確認作業をすること

友人との会話でもいいが、道を尋ねたりショッピングの際に必要なことで、実際に私も道を尋ねるときには確認作業を行った。これは、自分が相手の言っていることを理解しているのかを助けてくれるほかにも、確認作業をすることで英語でのコミュニケーションをより長く延長させるだろう。

真似できること3：ジェスチャーや身の回りにあるものを活用すること

出川はジェスチャーをよく使い、グローバルイングリッシュでもジェスチャーは必要だとされている。実際に英語が伝わらなかったりするとジェスチャーを使うし、私も出川イングリッシュを実践したビデオを見ると、指で方向を指すなどをして常に両手が動いていた。

真似できること4：出川のようにフランクになること

これは出川の人間性だと評価されがちだが、実際は違うと私は考える。私は道を尋ねることに必死で出川 ENGLISH を実践するにあたって意識したこと「④会話の最後に握手をしたりハグをすること」を実践することができなかった。意識していれば会話の最後に握手もできる状況だった。こちらが心を開く意識をすれば、相手にもそれが伝わり、仲良くなれるだろう。以上の4つのことが私たち一般人でも真似できる4つのことであり、それら全てには意識の問題という共通点がある。

では、意識をすれば私たち一般人が誰でも出川のように英語を用いてコミュニケーションをすることができるのだろうか。もちろん、意識することから全ては始まると私は考えている。しかし意識だけで全てが上手くいくとは思えない。そこで英語を用いてのコミュニケーションを出川のように行うために私が考えたことは、英語を使う経験をたくさんすることだ。実際に私は一ヶ月間シドニーで英語を使う経験をするにつれて英語を使うことへの抵抗感は薄れていき、英語でのコミュニケーションが増えていった。

では、その経験は留学をするしかないのだろうか。日本にしながら英語を使う経験をするにはできないだろうか。私とその経験も出来てもっと有効活用しなくてはいけない場が「学校」だと考えている。中学・高校では英語は必修科目であり、今では小学校にも英語教育が導入されている。この学校での教育の場で、英語を用いてのコミュニケーションの経験を養うことができるだろう。

そもそも私たち日本人は6年間も英語に触れてきているのにどうして英語を使うことに抵抗感があるのだろうか。その要因の1つに座学中心で書いたり、英訳・和訳中心の受身の授業が多かったからということがあげられる。

私自身、英語の文法は細かく指導されてきたが、実際に英語を喋った記憶がほとんどない。この研究をした上で考えると、英語とは言語なのに、実際に使う練習をしていないのはおかしいと言える。

しかし、そんな受身の教育も今では少しずつ変わってきている。日本の英語教育は従来の受身の教育から、生徒が主体的に学ぶアクティブラーニングという教授法に変わってきている。アクティブラーニングとは、生徒同士がペアを組んだり、グループを組み、自主的に英語を使ってコミュニケーションを取っていく授業形態である。この様に実際に英語喋る教育を受けることによって、従来の教育を受けてきた人たちよりも、英語を話す経験を積むことができているため、英語を使うことへの抵抗感は少なくなるだろう。実際に出川 ENGLISH を実践した際に自然と出てきた *go along the street* というフレーズは、アクティブラーニングの授業形態で学び、身についたことである。私は、アクティブラーニングは多くの可能性を秘めていると考えている。

この様に、学校教育が変わることで、日本人の英語に対する考え方も変わっていくのではないのだろうか。私は、英語教師になり、正しい綴り・英文法を教えるが、生徒が積極的に英語でコミュニケーションをとろうとしているのであれば、多少の文法の間違いなどがあっても指摘する必要はないと考えている。もちろん中学・高校の6年間で英語を完璧にマスターすることは難しいだろう。だからこそ英語とは「言語」なのだから、数学の様に決まったやり方、答えを求めるのではなく、自身の「言葉」を大事にする教育をしていきたい。英語に少しでも興味をもってもらえる教育をしていきたい。好きな海外アーティストの曲の歌詞がどういったものなのか調べたり、海外旅行で少し英語で会話をしてみたいとそういった英語に関する興味を刺激するような教育をしていきたい。

出川 ENGLISH とグローバルイングリッシュは日本の英語教育の重要な鍵となり、とても有効な教材の1つになるだろう。将来、教職についた際に、この出川 ENGLISH を生徒たちにみせて、英語とは教材の1つではなく、言語の1つ、文化・言語が違うもの同士の会話のツールの1つだと気づかせたい。

第五章 おわりに

本研究では、リサーチクエストである「なぜ出川哲郎は語学力が高いにもかかわらず、英語を使いコミュニケーションを図ることが出来たのか」ということに焦点をあて、世界の果てまでイッテQというTV番組中の「出川哲郎はじめてのおつかい」というコーナーを書き起こし、分析・考察を行った。出川哲郎は異国の地でも人見知り、物おじせず積極的にコミュニケーションを図り、英語を使ってというよりかは英語を一つのコミュニケーションツールとして活用して様々な人とコミュニケーションをとり、番組内のミッションをすべてクリアした。私をはじめ多くの人が、英語ができるようになりたい、話せるようになりたいと思って英語を勉強していると思うが、出川 ENGLISH を研究して、英語学習の本質は、私たちが学んできたことより別にあると気づいた。それは、英語は言語でありより多くの世界中の人と繋がる言語ツールだということだ。英語を話せるようになるのが大切なのではなく英語を使って何をするか、どうするかが重要なのだ。漠然と英語を勉強していればいいのではなく英語を勉強する目的を明確にすることが大切である。私の場合は将来教職について英語を教える立場を目指している。私が目指す英語教育は、英語でコミュニケーションをとり世界の人とつながり異文化を体験する楽しさを知るきっかけの場であり、そのために今私は、英語を学び世界の様々な人種、宗教の人などとつながる楽しさを学んでいる。今回の経験を通じて私は、英語を学ぶ目的というとても大切なことに気づかされた。

出川哲郎の事務所であるマセキ芸能者と日本テレビの「世界の果てまでイッテQ」に何度かインタビューのお願いとしてメール、本論文を送付したが返事はなかった。できることなら出川哲郎本人にインタビュー、私との意見交換などを通じてもっと出川哲郎という一人の人間の考え方に向き合い、研究の参考としたかった。もし再び同じ研究テーマで研究する機会があれば、なぜ大学3年でこの論文を書くまで英語を学ぶ目的ということの大切さに気づかず漠然と英語ができるようになりたいと考えていたのか、また、なぜそのような人が他にもたくさんいるのかについて調査していきたい。

参考文献

- ジャン＝ポール・ネリエール、デイビッド・ホン 訳：一般財団法人グローバル人材開発
(2011), 『Globish The World Over (世界のグロービッシュ)』 東京：東洋経済新報社
- 『オスカープロモーション公式サイト 河北麻友子』
https://beamie.jp/t/mayuko_kawakita.html 2017年12月4日現在
- 『マセキ芸能者オフィシャルサイト 出川哲郎』
<http://www.maseki.co.jp/talent/degawatetsuro> 2017年12月4日現在